

ESD コーディネーター・プロジェクトとは

ESD-J は、2009～10 年にかけて、環境省からの受託事業として「ESD コーディネーター育成のあり方に関する検討会」を開催しました。そこでは、ESD コーディネーターの概念整理をし、地域ですでに活躍しているさまざまな立場のコーディネーターに ESD の視点を共有化・意識化していただくアプローチが重要、という方向性を打ち出し、育成方法として組込み型、OJT 型の研修モデルを開発しました。

ESD コーディネーター・プロジェクトでは、その成果を基盤としつつ、コーディネーター育成をより具体化し、事業化していくことを目指して、2012～14 年の 3 年間、OJT 型研修のモデル実施とカリキュラムの整理、そして映像教材作成に取り組んできました。

＊ OJT 研修のモデル実施にあたっては、以下の団体にご協力をいただきました。
各地の研修内容はウェブサイトよりご覧いただけます。

北九州市、北九州サステナビリティ研究所、環境教育事務所 Leaf、
岡山市、茨城 NPO センター・コモンズ

ESD コーディネーター研修をサポートします

(50 音順、敬称略)

池田 満之	岡山ユネスコ協会副会長
川嶋 直	日本環境教育フォーラム理事長
河野 宏樹	環境教育事務所 Leaf 主宰
志賀 誠治	人間科学研究所代表
壽賀 一仁	いりあい よりあい まなびあいネットワーク理事
高田 研	都留文科大学教授
西村 仁志	広島修道大学准教授
森 高一	日本エコツーリズムセンター共同代表
森 良	エコ・コミュニケーションセンター代表

もっと詳しく

<http://www.esd-j.org/esd-co/>

人びとの 思いを形にし
未来へつなぐ

地域のなかで、様々な人たちがかわり、地域や社会の課題を学びあい、それを解決するための行動を起こしていく場を生み出す。そうすることで、持続可能ですべての人が排除されずに生きられる地域社会をつくることにつなげていく。そんな学びの場を、私たちは ESD と呼んでいます。大人も子どもも、テーマや立場を超えて人びとがつながるためには、学びあいによって人と人を「つなぐ人」、ESD コーディネーターが必要です。

- 「つなぐ人」たちに ESD の視点と方法をプラスするために
- 社会活動のリーダーの「思いを形にし、未来へつなぐ」力をアップするために

「ESD コーディネーター研修」をひらこう

コーディネーション力は現場で育つ

コーディネーション力は、座学だけでは育ちません。研修には、持続可能な地域づくり、あるいはそのための市民、行政、企業、大学などの地域の異なる立場の人びとの協働を現場でコーディネートする **OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）** を組み込むことが重要なポイントとなります。



地域のニーズ、実情に合わせて人を育てよう

ESD コーディネーター研修は、①地域のさまざまなコーディネーターに、ESD の視点をプラスすること、②社会の課題解決に取り組んでいる人たちの、コーディネート力をアップすること、を目標にしています。対象とする地域の広さ、参加者層、核とするテーマ、力点を置く要素など、地域のニーズや実情に合わせて設定しましょう。

学びと実践を組み合わせ、OJT 型研修

ESD コーディネーター研修で扱う要素

領 域		細 目	
1	ESD の視点を 持つ	1-1	ESD とは
		1-2	ESD コーディネーターとは
		1-3	今の自分の活動と ESD との関係性を明確にする
2	地域の課題を 抽出する (調査と分析)	2-1	地域を観る (DO)
		2-2	地域の課題を考える (LOOK)
		2-3	課題を深める (THINK)
		2-4	課題達成のための糸口を見つける
3	課題達成のための 企画づくり	3-1	課題達成に向けた事業企画、ロードマップをつくる
		3-2	プログラムデザイン
		3-3	協働と参画の進め方
4	企画書を書く	4-1	多様な人を巻き込む
		4-2	実施に向けて
5	ファシリテーションの スキル	5-1	ファシリテーションの考え方
		5-2	グループワークの進め方
6	展開後の ふりかえりと 継続へ	6-1	成果のふりかえり
		6-2	ESD の視点によるチェック
		6-3	事後の展開に向けて

全部を一度の研修で行うのではなく、地域や想定した受講生のニーズに合わせて、いくつかのポイントに絞り、OJT 型で行うことが大切です。

集合研修で学んだことを、自分の職場や活動に持ち帰って試してみる。その結果を次の集合研修に持ち寄って、現場で起こったことや困ったことを共有し、互いにアドバイスし合う。そうして受講生同士の切磋琢磨を重ねて、コーディネータースキルを磨いていく研修スタイルです。



いろいろ使える、映像教材

ESD-J の映像教材は、1 本が 3 分から 10 分。ネット環境があれば、いつでも、どこでも、何度でも、手軽に見ることができます。今注目の MOOC 教材としても活用可能。さらに、遠方から講師を招く予算がないときには、研修の中でも活用できます。

＊ MOOC（Massive Open Online Courses）：
研修講師があらかじめネット上に解説用の映像コンテンツを上げておき、受講者はそれを事前に見てマスターした上で教室に来て、実際の授業はそれを前提にグループでのワークやディスカッションを行う。最近では小学校でも試みられるほか、多くの場で導入が進んでいる。

スタッフや専門職員の研修を OJT 型に

〇〇リーダー養成講座にコーディネート視点を組み込んで

映像教材を活かして集合研修を効果的に



＜開催例＞

- ＊ 公民館や市民センターのスタッフ研修で、地域課題をふまえた企画づくりを行う
- ＊ 環境、国際、人権、平和、福祉、多文化共生などのリーダー講座に、ファシリテーション、コーディネーションをプラスする
- ＊ ソーシャルワーカー、社会福祉士の研修に、題材として多文化共生を組み込む
- ＊ 多様な主体が協働する場合（フューチャーセッションや円卓会議など）を OJT 研修として実施する

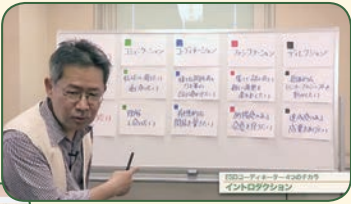
ESD コーディネーターに必要な 7 つの視点

- 1 地域の持続可能性、世界の持続可能性を視野に入れたビジョンを持っている
- 2 地域の課題に取り組む一員としての自覚を持っている
- 3 市民のエンパワメントを促進する
- 4 多様な主体（教育現場を含む）の参加と協働を促す
- 5 多様な課題を把握し、分野横断的な活動を促す
- 6 さまざまな主体が社会的責任を果たせるよう働きかける
- 7 持続可能な社会にむけたビジョンの実現に向けた道筋を示し、それをプロデュース、マネジメントする

環境省「ESD コーディネーター育成あり方検討会」より



SD！ESD！DESD！



ESD コーディネーターに必要な 4 つのチカラ



ESD コーディネーターのお仕事



ESD コーディネーターの 7 つのスキル

